

中長期目標 (学校ビジョン)	「昨日の自分」を越えていく（出会い＋挑戦＝成長） 1 学ぶ意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」 →授業改革 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」 →場の設定・声かけ	今年度の重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 職業観、勤労観の醸成 4 進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得 5 地域社会への貢献
-------------------	---	----------	---

年 度 当 初					最 終 評 価		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度への改善方策
【基礎学力の向上】	○家庭学習を充実させ、社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得	○平均家庭学習時間について昨年度の調査で全生徒が1日30分以下である。 ○課題提出や小テストを繰り返し実施して、基礎学力の向上や家庭学習の定着を図り、基礎力診断テストでは1、2年生とも好結果であった。 ○成績不振者に対して、長期休業中や考查前の放課後に講習を行い、学力の底上げに取り組んだ。 ○各種検定取得には関心が高く、放課後にも意欲的に学習に取り組んでいる。 ○リーディングスキルテストを実施したが、分析・その後の対策の検討ができていない。	○生徒は進路を意識して家庭学習が定着できている。 ○全生徒の1日の平均家庭学習時間が1時間以上である。 ○教員はICTやアクティブ・ラーニングの手法を駆使し、生徒の興味・関心を育み、考える力を培う授業ができるようになる。 ○読解力が身についている。	○定期考査、資格試験、進路模試や定期的な課題提出により家庭学習の習慣化を図るとともに、確認テストや4月と11月の家庭学習時間調査を生徒にフィードバックする。 ○成績不振者に対して、放課後の学習会や長期休業中などに講習会を実施する。 ○ICTの活用やアクティブ・ラーニング、協働学習等の研修会を実施する。 ○リーディングスキルテストを分析し、読解力が伸びるような指導を実施する。	○11月に実施した家庭学習時間調査では、1日当たり、2年生25分、1年生31分と5月調査より減少したが、昨年度より増加した。 ○朝勉強テストの12月までの結果は、全校で満点者率が16%、不合格者率18%であった。 ○成績不振者に対して、長期休業中や考查前の放課後に講習を行った。 ○主体的な学びを行わせる授業、ICTを活用した授業の実施率は高く、新しい形の学びは定着してきている。 ○新タブレットの活用講習会も実施したので、その利用方法も定着しつつある。 ○アクティブ・ラーニングを用いた示範授業・講演会を実施した。 ○生徒の読解力向上のため、教職員に対して研修会を実施した。	B	○家庭学習の定着を図るために引き続き、朝勉強テスト One-Week トライアルの取り組みを充実させる。 ○朝勉強テストの不合格者（70点未満）に対して、学年団と連携して基礎学力向上に努める。 ○学力の補充が必要な生徒が増加しているので、次年度も計画的に講習を実施する。 ○現状を維持しつつ、ICTの活用についての講習は毎年度継続して行い、人事異動により利用が停滞しないようにする。 ○引き続き主体的・対話的で深い学びの研修会を実施する。 ○生徒の読解力向上のための方策を検討し、指導していく。
	○知・徳・体のバランスが取れた生徒の育成	○問題行動等は極めて少なく、日常の生活態度はおおむね良好な状況であるが、挨拶や清掃活動等では積極性があまりない。 ○交通ルールの遵守についてはさらに意識を高めるための啓発活動が必要である。 ○人間関係に悩み、解決方法が分からず不安な生徒にきめ細かく対応した。 ○人権教育講演会、それを受けた密度の濃いLHRが展開できた。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識が高まる。 ○情報モラルの意識が高まり、SNSに関わるトラブルが起きない。 ○ハイパーQ Uを活用し、自己肯定感を高める。 ○「身近な差別」に気づき、その解消に立ち向かっていく。	○登下校時や授業、部活動等あらゆる機会を捉え、ルール・マナー・モラルを繰り返し指導する。 ○生徒指導部、進路指導部など関係各部と連携して規範意識の醸成に取り組む。 ○情報モラル講演会・非行防止教室等を実施する。 ○ハイパーQ U職員研修会を通じ、生徒について情報交換を行い、対応を共有するとともに、スクールカウンセラー（SC）や関係教職員、保護者やスクールソーシャルワーカー（SSW）、関係機関と連携する。 ○人権教育講演会や人権教育LHRにより、生徒の人権意識の向上を図る。	○生徒会、部活動、委員会の生徒と挨拶運動をすることにより、進んで挨拶をする生徒が多くなった。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ない。しかし、若干名、再検査や再指導の対象になる生徒があった。 ○交通安全教室を実施したり、ルールについての啓発を毎月実施したが、事故の件数は昨年より増加した。 ○情報モラル講演会、非行防止教室、薬物乱用防止講演会等を実施し生徒の規範意識の醸成を図り、意識が定着してきた。 ○不安を抱えている生徒について迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡・情報交換を密に行い、支援することができた。 ○1年生はストレスマネジメントLHRを、1・2年生で年2回のハイパーQ Uを実施し、職員研修会で分析・情報交換を行い、生徒理解に努めた。 ○人権教育LHRにおいて、生徒が主体的に学び、考えを共有することに重点を置いた展開となるように、第1学年ではワールドカフェ形式による討議を、第2学年では隣保館訪問導入と多様な人権問題に関する講演の実施など、新たな取り組みを実施した。	B	○生徒会や部活動と連携をして挨拶運動を実施するとき教員にも参加してもらうように改善する。 ○授業でも引き続き挨拶・分離礼の指導を行い、一層定着するよう取組を続ける。 ○交通安全教室の実施内容（今年度のように）や日々の啓発活動を改善する。 ○個々の生徒の様々な悩みや不安にきめ細やかに対応し、担任、学年団、保健部、保護者、SC、SSWや関係機関との連携を図る。 ○1年生に対し、ストレスマネジメントLHRを実施する。 ○1・2年生で年2回ハイパーQ Uを実施し、職員研修会を実施し分析・情報交換を行う。 ○人権教育LHRが、生徒にとってより深く主体的な学習となるために、教師個々の研究が必要不可欠であり、県内外の研修会参加を促進する。 ○日常生活の中で、生徒の人権意識や自尊感情の向上を促すため、教員から積極的に生徒へ挨拶・声かけをする。
	○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得						
【職業観、勤労観の醸成】	○系統立てた指導により、適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む生徒の育成	○進路LHRやインターンシップ等の経験、スタディサブリや面談、学校企業見学を通じて勤労観は高まっているが、具体的な行動に移す段階には至っていない。 ○進路講演会、小論文LHR、学校企業見学等を通して職業観、勤労観の育成をはかることができた。	○調べ学習を通じて、自ら進んで職業研究に取り組む態度が身につく。 ○様々な活動・体験を通して、適切な職業観・勤労観を主体的に描けるようになる。	○進路LHRの中で自身の適性を知り、職業調べ、学校調べ等を行う。 ○本人・保護者の要望を聞き、担任、進路指導部や外部関係機関とも連携をとりながら進路実現を支援する。	○進路LHRで職業調べ（1年）、スタディサブリ（2年）等を計画的に実施して、職業研究に取り組む態度が身につけてきた。 ○担任による生徒面接、保護者懇談会、就職支援相談員の面接等を通して生徒・保護者の希望を把握し、生徒の進路実現を支援できた。	A	○学年団と進路指導部とで進路行事の目的等を共有し、生徒の進路意識の向上と実現に向けた行事を選定する。 ○担任、保護者、進路指導部、就職支援相談員とハローワークなどの外部機関を活用しながら生徒の進路実現を支援する。

	○インターンシップ等、体験学習の充実	○卒業後に必要であると思われることを想定した学習指導（身だしなみ講座、一人暮らし講座、租税教室など）が効果的だった。 ○衆議院選挙があったことに伴い、主権者教育の指導ができた。	○進路実現に向け、インターンシップを行う意義を理解し、その目標を達成する。	○外部人財を活用し、各学年の特性に応じた講習会・講演会を実施し、早い時期から進路意識を高める指導を行う。 ○インターンシップ等の実践を受け身ではなく、自発的な姿勢で臨む事を強く意識させ、適切な職業観・勤労観を主体的に描けるように指導する。	○進路希望別に四大・短大希望、専門学校希望、就職希望の3コースに分かれた学校企業見学や進路講演会を実施し、進路意識を高めることができた。 ○計画通りに外部人材活用事業を実施し、各分野のプロフェッショナルから指導を受け、今後の進路を考えることができた。 ○インターンシップでは昨年度62事業所を今年度は67事業所で実施し、事前指導、事後指導（発表会）を計画通り行い、職業観・勤労観を体得できた。		○進路希望別の学校企業見学や進路講演会を実施する。 ○外部人材活用事業を効果的に実施する。 ○インターンシップをより充実したものとするため、受け入れ企業の確保、新規開拓を進める。
【進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得】	○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○専門人材育成重点校として、進路実現に向け、資格取得を推進し、より高度な専門資格を取得	○学年と進路指導部が連携をし、個別指導に取り組み、1月末時点で就職内定率100%を達成した。 ○標準的な資格取得については意欲・関心が強く学習にも熱心であるが、検定上位級の取得を意欲的に目指す生徒が少ない。 ○基本情報処理技術者試験（国家試験）の午前試験免除に認定され、資格取得が容易になる体制を確立できた。 ○調理師養成施設として7限授業が定着し、授業時間数の確保を行っている。 ○子どものための愛情弁当コンテストでは2年連続全国1位に輝いた。	○進路実現に向けた情報収集、資格取得、知識や技能の習得に意欲的に取り組む。 ○進路を意識して、積極的に検定上位級取得を目指す。 ○検定試験の直前に学習を始めるのではなく自身で計画を立て効率的な学習を行う。 ○各種検定の合格率が重点校制度の目標を達成している。	○進路指導部・学年団と連携して、早い段階から進路を見据えた情報を提供し、生徒個々の進路目標の自己決定を支援する。 ○進路行事・模試・資格試験などの趣旨を明確に伝え、進路意識を高める。 ○検定の上位級試験や多種目の検定試験を意欲的に受験する生徒を増やす。 ○調理師免許や技術考査への全員取得にむけた授業や課外指導を継続する。 ○各種コンクールの参加を呼びかけ、受賞や表彰される生徒を増加させる。	○学校紹介による就職は12月末時点で内定率100%を達成した。 ○今年度は就職62名、進学77名、その他8名（1月末）であった。 ○生徒個々の目標に応じて、積極的に上位級の受験の勧奨・サポートを行った。 ○基本情報処理技術者試験1名、ITパスポート試験1名、日商簿記検定2級1名、販売士検定3級7名が合格した。 ○検定の多種目合格者は、商業学科6種目1名、4種目1名、3種目7名、家庭学科3冠王8名であった。 ○読書感想文コンクール（県高図研）で、優秀賞1名、優良賞1名の入賞があった。	B	○学年団と進路行事の目的等を共有し、生徒の進路意識の向上と実現に向けた行事を選定する。 ○個別の生徒の能力を考慮しつつ、意識を高め、自発的な取り組みが行える生徒の育成を目指す。 ○県の技術検定事務局校として、教員の指導力向上を図る。 ○各種コンクールを生徒に紹介・応募し、表彰を受けることで達成感や自己肯定感を得る指導をする。
【地域社会への貢献】	○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与するリーダーの育成 ○地域活力を導入して、学校や地域で主体的に行動し、地域社会の発展に貢献する人財の育成	○北朝鮮情勢悪化のため、韓国ハンセム高校との交流ができなかった。 ○課題研究で、地域に出てイベントを行ったり、販売実習を企画した。また、地域の食材や産物の特性や魅力を知る取組をし、一部商品化も実現した。 ○家庭クラブ活動等で中海アダプトプログラムや地域イベント補助の地域活動に参加し貢献した。 ○社会人講師活用事業や保育実習、授業サポート等の交流体験学習により、コミュニケーション力等の学習成果が高まった。 ○2年生が主体となった生徒会活動、部活動も軌道に乗り、各活動での成果があらわれてきた。学校祭では、生徒会執行部、学校祭の団長・副団長が全校をまとめるリーダーとして活躍した。 ○環境リーダーや地域振興のための活動を学校活動として取り組んでいる。	○国際交流事業に参加し、体験を通して国際的視野を広げる。 ○何事にも主体的に取り組む、リーダーとして集団をまとめられる。 ○この地域の良さを再認識でき将来的に主体的に企画・実行するリーダーを目指す。 ○課題研究や各種活動を通して地域をより深く理解すると同時に、コミュニケーション力・プレゼンテーション力が向上する。	○各種国際交流事業を生徒に紹介し、意欲的に事業に参加する生徒を増やし支援する。 ○課題研究の各研究分野の相互の連携、商業学科と家庭学科との連携、進路指導部を通じた企業との連携など、本校の魅力ある取組を積極的に地域に情報発信する。 ○授業や家庭クラブの取組の中で地域や企業との関わりを大切にし、中海アダプトプログラムや地域イベントの補助等の地域活動に貢献する。 ○地域の保育園や小学校との交流授業や各種発表会に向けた指導の充実により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。 ○生徒会活動や部活動など自分の適性、能力が発揮される場面を意識させ、より積極的な行動を促すとともにやり遂げることによって得られる充実感や責任感を実感させてリーダーを育成する。	○10月23日～26日に生徒6名がハンセム高校を訪問し、その成果をみつばち学習発表会で発表した。 ○江原道との生徒交流派遣（1名）、青少年訪韓団（2名）、日韓高校生交流派遣（1名）、南部町高校生国際交流（4名韓国）等、多くの生徒が国際交流事業に応募、参加した。 ○課題研究により7月の七夕まつり、12月のマチナカクリスタル、地元の事業所のポスター制作等、地域と連携した取組を実施し、本校の魅力を発信できた。 ○伯州綿、ブロッコリーなど地元の特産品の商品化やイベント協力、小学校給食提案、高齢者施設でのボランティア、中海アダプトプログラム等を通じ地域活性化に貢献できた。 ○地域の保育園や小学校との交流授業やみつばち学習発表会などの各種発表会に向けた取組により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が伸長した。 ○学校祭、球技大会、留学生との交流会、生徒会新聞の発行等、生徒会執行委員を中心に、自分たちの役割や集団を動かすには何が必要かを考え、理解して自主的に行動できる生徒が増加した。	A	○来年度はハンセム高校からの訪問受入であるので、ホームステイ受け入れ先を早めに検討する。 ○各種国際交流事業を生徒に紹介していく。 ○課題研究を中心に、地域活性化の方策を生徒に考察させ、他校の生徒と協力して様々な取組を計画、実施する。 ○すでにジビエ料理の開発・普及活動の要望等がきており、引き続き地域貢献活動に取り組むが、特定の教員に負担が重ならないよう、科会などで協力体制を打ち合わせる。 ○生徒会の各組織やリーダーの役割・責任を明確にすることで、生徒が自主的に活動しやすい体制づくりを進める。 ○地域社会で何かに取り組みたいと思った時に活かせるような、組織で取り組むためのノウハウを身に付けさせる。

評価基準（5段階）

A：十分に達成〔100%〕

B：概ね達成〔80%程度〕

C：変化のきざし〔60%程度〕

D：まだ不十分〔40%程度〕

E：目標・方策の見直し〔30%以下〕